

小学生向けがん教育絵本「友だち～ぼくとゆう君～」で試行授業

東京都世田谷区立池ノ上小学校

日本対がん協会は現在小児がんへの理解促進のために、絵本タイプの小学生向けがん教育読本「友だち～ぼくとゆう君～」を制作中だ。このがん教育読本を使って2月9日、東京都世田谷区立池ノ上小学校で試行授業を行った。授業の対象は同校の6年生約50人で、この読本を読み聞かせて反応や感想を聞き、手直した上で完成させる予定だ。



朗読に聞き入る生徒たち

講師は同校の庄子寛之教諭で、保健の時間を使って一時限の授業を行った。庄子先生は以前からがん教育に熱心に取り組み、文部科学省の「がんの教育の在り方に関する検討会」のがん教育教材ワーキンググループの委員も務めた。今回の教材でも細谷亮太聖路加国際病院顧問とともに監修をした。

当日の授業は、まず庄子先生の簡単



授業をする庄子先生

な趣旨説明のあと、「友だち～ぼくとゆう君～」をスクリーンに投影し、紙芝居のように動かしながら庄子先生が朗読した。子どもたちの感想を聞いた後に、同じく協会作成のアニメ「よくわかる！がんの授業」を2話見せてがんの基礎知識を学んだ。その後、がん教育読本の原案を作った日本対がん協会の小西宏がん検診研究担当マネージャーと、本多昭彦がん教育担当マネージャーが黒板の前に立ち、子どもたちからの質問に答えた。

「どうしたらがんにならないの」「どうしたらがんになるの」「がんって繰り返すの」「治るがんと治らないがんはどう違うの」「がん検診ってどんなことするの」「な

ぜ日本はがんが多いの」など、大人も顔負けの質問が次々寄せられた。

小西マネージャーと本多マネージャーは子どもたち向けにやさしい言葉で説明することに苦心しながら、「タバコを沢山吸ったり、お酒を飲みすぎたり、いろいろがんになりやすくなることはあるけど、そういうことをしなくてもがんになることはあるんだよ」「治るがんと治らないがんの一番の違いは、早く見つかったか

どうかってことだよ」「日本にがんが多いのはお年寄りが多いからだよ」などと丁寧に答えていた。

最後に小西マネージャーが「みんなちゃんと聞いてくれてありがとう。質問がいっぱいびっくりしました。なぜかって思う事は大事なことで、世の中にはいろんな人がいるということを知ってほしい」としめくくった。

完成した小学生向けがん教育読本「友だち～ぼくとゆう君～」は近々日本対がん協会のホームページで公開する。

(本橋美枝)



イラストが可愛い小冊子

生徒たちの感想より

- *私がこの学習で学んだことは、がんは自分には関係ないわけではないということです。病気の人が差別されているという事に気づきました。
- *がんを身近に感じる事ができる最高の本だと思いました。友達ももしかしたら明日がんになってしまって入院すると考えると、ありふれた毎日がとても大事なんだと改めて感じました。
- *とても勉強になった。がんはとてもこわくて死ぬ

- 病気だと思っていたけど、意外と治るんだなあと考えた。最近の医学はすごい！！
- *がんを経験している人としてない人では生きることの考え方が違っているのかなと思いました。ゆう君はがんだとわかっていたのに、悩んでいるはずなのに、そのような姿だと言うことに感動し、体は弱いけど、心は強いのかなと思いました。